

水の特別賞

「水の大切さ」

浦和実業学園中学校 一年 中島 大智

現在、水道水を安全に飲むことができる国は思った以上に少なく、日本を含め九カ国しかありません。それ以外の国はペットボトルに入っている水や川の水を飲んでいきます。飲み水を確保するために、片道何時間もかけなければならぬ地域もあります。

もし普段の生活の中で水道がなかったら、とても困ると思いました。水道を整えるには二つの利点があります。一つ目は、安全な水をすぐに飲むことができることです。二つ目は、地球環境も良くなることです。具体的には、地球温暖化と海洋プラスチック問題です。ペットボトルに入っている水は同じ量の水でも水道水に比べ、約六十倍もの二酸化炭素を排出してしまいます。水道水を使えば、二酸化炭素を減らすことができます。同時にペットボトルも減るので、海を汚してしまうマイクロプラスチックごみも減らすことができます。

地球温暖化により大型の台風十九号が発生したときは、荒川が氾濫する様子をライブカメラで見っていました。とても怖かったです。水は茶色く川幅も広がっていて、普段遊びに行く荒川の姿とは違っていました。その荒川の水質調査を川口から長瀬まで、夏休みの自由研究でしたことがあります。都内と埼玉県の間境、川口付近ではペットボトルが浮いていました。昔は泳げるほどきれいだったようですが、今はまったく入る気になりません。調べた結果、上流に行くにつれて水は少しずつきれいになっていき、生息している虫やカエルなど観察できる生き物が変わっていきました。長瀬には緑色に光るきれいなトンボもいました。水が少しきれいになっただけでも自然が豊かになるのだから、どうにかして水をきれいにできればいいのと思えました。水は飲料以外にも、工場やトイレなどのいろいろな場面で使われています。水道設備やトイレがない国もあります。このような国では排せつ物に汚染された水により、たくさん

人が病気になってしまい、有害物質が入っている水を飲むしかないなどの問題があります。水道やトイレがないのは病気を拡大させてしまう一つの原因だと考えました。

現在日本では、下水道の普及率が百パーセントではありません。上水道も大切ですが、川や海を汚さないためには下水道も大切であると考えました。

日本は外国の下水も作っているのですが、日本国内での普及率を上げるとともに世界に向けてどんどん広めてほしいです。水の設備を整えると食料も安定して獲れるようになります。多くの食料を輸入に頼っている日本にとって他の国の水問題は日本にも関わることです。

近年問題になっている食品ロスですが、日本が出している食べ残しは何千万人分もの食料に値します。この食料を作るために大量の水が使われていることを意識して、食べ物も大事にしなければなりません。

自分たちが思っている以上に、使っている水はとても貴重で必要不可欠であることを改めて感じました。水をきれいに保つためには汚さない、無駄使いをしないことが大切です。そのためには油を流さない、洗剤を最小限に使い、自然に良いものを選ぶ、節水するなど日常生活の中で一人一人ができることを心がけることが大切だと思います。

水を守るといふことは、水源地を守ることにつながります。水源地の自然環境を守ったり、保護したりすることも大切です。